

日本生薬学会会員海外派遣助成事業 (B-2)
海外で開催される国際研究集会への参加 [成果報告書] (抜粋)

1. 派遣者

所属 東京薬科大学大学院薬学研究科 職名 博士課程3年 氏名 井口巴樹

2. 研究集会名

(欧文名) 65th Annual Meeting of the Society for Natural Plant and Natural Product Research
(訳文名) 第65回薬用植物および天然物化学学会年会

3. 派遣期間

2017年9月3日～2017年9月7日(5日間)

4. 国際研究集会の概要とその成果 (併せて600字～800字で記載下さい。)

(概要)

本学会は、ドイツ連邦共和国に本部を置く Society for Medicinal Plant and Natural Product Research の年次総会として開催される国際学会である。本年度は9月3日から9月7日の日程でスイス連邦のバーゼル市で開催された。Bioactive Natural Products や Analytical Studies and Natural Product Chemistry、Phytopharmacology 等を主テーマとし、招待講演、受賞講演、口頭発表およびポスター発表が行われた。総演題数は約500演題であった。堅苦しくない雰囲気の中で、積極的にディスカッションが行われた。

(成果)

学会初日は Get together party が行われ、ほぼ全ての参加者が一堂に会し、親交を深めた。私は、現地9月4日に、「Cholestane glycosides from *Ornithogalum saundersiae* bulbs and their apoptosis-inducing activity via a mitochondria-independent pathway」という演題にて、ユリ科 *O. saundersiae* 鱗茎から単離されたコレスタン型ステロイド配糖体の構造決定、細胞毒性およびアポトーシス誘導活性について報告をした。具体的には、① *O. saundersiae* 鱗茎より新規化合物20種を含む40種のコレスタン型ステロイド配糖体を単離し、それらの化学構造を明らかにしたこと、②単離された化合物の HL-60 細胞に対する細胞毒性を評価したところ、20種の化合物が陽性対照のエトポシドを上回る細胞毒性を示したこと、③細胞毒性を示した化合物のうち、収量の多かったものの活性を精査したところ、HL-60 細胞の細胞周期を G2/M 期で停止させ、アポトーシスを誘導すること、④アポトーシス誘導は、非ミトコンドリア経路で起こること、を発表した。また、他の発表を聴講し、最新の天然物化学に関する研究成果に触れることができた。学会全般を通して、会場のいたるところで参加者が積極的にディスカッションしているのが印象的であった。そして、国際学会で活発なディスカッションを行うために、英語コミュニケーション力の一層の向上が必要であることを痛感した。国際学会は、国内の学会とは異なった緊張感のなか大変貴重な経験となった。今回の経験を糧に、今後さらに研究を発展させていきたい。

5. キーワード (本研究成果のキーワードを最大6つお書き下さい。)

- ① *Ornithogalum saundersiae* ② Cholestane glycosides ③ Cytotoxic activity
④ Apoptosis ⑤ ⑥

6. 本会からの助成に対する意見・希望等

今回、貴会海外派遣助成事業により金銭面のご支援をいただけたことで、安心して国際学会に参加することができました。ここに厚くお礼申し上げます。